令和2年度授業改善推進プラン

（取り組み内容）　・毎学期の終わり、自分の担当（各学年ごとに項目だてて）の授業に関して作成する。
・本年度の自己の研修課題に関連し、自己の授業を分析し課題を見いだす。
・見いだされた課題に対し改善プランを立て、指導方法の工夫・改善を図る。
・学期の終わりに検証を行い、来学期につなげていく。

教科名（技術科 ）　教科担任名　橋本　慶太

★教科・観点について
期末テスト及び学期の学習状況、生徒の授業アンケートをもとに分析し記入する。<〇成果　▲課題>

観点	1学期			2学期			3学期
	学年	課題分析	具体的な改善策	学年	課題分析（授業改善・プランの1次評価）	1次評価後の具体的な改善策	改善プランの評価・来年度にむけて
生活や技術への関心・意欲・態度	1年	〇作業に意欲的に取り組む。 ▲基礎的な知識が少ない。	・生徒自身が課題や作品を考え、進んで取り組むことができるような題材を設定していく。 ・グーグルクラスルームを活用した授業を行う。	1年	〇クロームブックを使った意見の共有を積極的に行うことができた。 ▲時間を意識し、計画的に進めることが課題である。	・計画を立てやすいような見本や説明をしていく。 ・製作課題では、大きな目標だけではなく、授業内での小さな目標を立てさせる。	
	2年	〇丁寧にきゅうりの観察を行っていた。 ▲自粛期間の影響や天候の問題もあり、きゅうりの栽培に対してやや意欲が低かった。		2年	〇集中してはんだづけの作業に取り組むことができていた。 ▲時間を意識し、計画的に進めることが課題である。		
	3年	〇キーホルダー製作では集中して取り組むことができていた。		3年	〇プログラミングに興味をもって取り組んでいた。 ●今までに経験のないことには苦手意識がある。		
生活を工夫し創造する能力	1年	〇周囲と協力しながら、製品を丈夫にする方法を考えることができていた。	・上手くいかなかったときの状況を再現し、その時の様子をよく観察することで、原因に気付くような授業を展開していく。	1年	▲その後の展開を予測すること、上手くいかなかった時の原因と解決方法を考える力を付けることが今後の課題である。	・問題解決能力を培うような問題を少しずつ授業の導入などに取り入れていく。 ・最終的な完成時のことを考えた設計（強度や機能性などについて）も考えさせるような話を授業内で取り入れる。 ・作業前にクロームブックを使い、起こりうる問題について意見の共有を行う。	
	2年	〇農薬や養殖など、生物育成に関する技術の利用方法を考えるとき、メリット・デメリットの両方を考えることができていた。		2年	▲工夫点について文章で書くことに課題がある。		
	3年	▲キーホルダー製作時に、デザインを重視してしまい、強度が弱くなってしまう作品があったため、機能性とデザイン性について考えていく必要がある。		3年	▲キーホルダー製作時に、デザインを重視してしまい、強度が弱くなってしまう作品があったため、機能性とデザイン性について考えていく必要がある。		
生活の技能	1年	〇多くの生徒が完成時を考えながら部品加工をすることができていた。 ▲実生活での経験が少ないため、道具の使い方が拙い生徒が多くみられる。	・実際にやり方を見せ、生徒が取り組むようにする。 ・上手く行うポイント、失敗してしまうときのポイント、危険な ポイントなどを毎回の作業前後に伝える。 ・机間指導の際には、全体指導時に伝えたポイントを個々に伝えながら意識させ、技能の定着をさせていく。 ・教え合い活動を通して、生徒間で解決する方法を考えさせる。	1年	〇道具を適切に使い、安全に活動することができていた。 ▲げんのうの扱い方は正しいが、姿勢や力の加え方などが原因で釘を曲げてしまう生徒が多かった。 ●パソコンの操作能力に個々の差が大きい。	・生徒に応じて、上手くいかない時の原因とその解決方法を伝え、適宜指導していく。 ・基本的なパソコンの操作方法も授業の内容と並行して習得する機会を作っていく。	
	2年	▲栽培の作業の負担が一部の生徒に偏っていた。		2年	〇道具を適切に使うことができていた。		
	3年	〇工具を適切に扱い、金属の切削作業を丁寧に行うことができていた。		3年	〇工具を適切に扱い、金属の切削作業を丁寧に行うことができていた。		
生活や技術についての知識・理解	1年	〇材料の利用方法やそれぞれ材料の違いについて理解することができていた。	・授業の中で重要な内容が伝わりやすいように、ポイントを絞った板書、プリント作りを行っていく。 ・実験等、実体験を踏まえた授業を行い、より生徒にとって内容が定着しやすい授業の工夫を行う。 ・グーグルクラスルームを活用し、生徒間の知識の共有ができるようにしていく。	1年	▲実技で行ったことを文章化してテストに出すと答えられない生徒が多かった。行った活動を言語化して理解することが課題である。	・毎回の授業の終わりに、グーグルフォームで簡単な復習テストを行い、知識の定着を図る。	
	2年	〇栽培を行うために必要な条件を知り、それを実践することができていた。 ▲生物育成を行う背景や植物以外の内容への理解に課題が残る。		2年	〇テストに向けて作成した問題集や、ワークを中心に勉強した様子がみられ、知識として習得してきつつある様子が見られる。		
	3年	▲加工技術や道具の名称などの知識の習得は得意であるが、今までの授業で培ってきた知識を使い、問題点を見つけ出し解決するような問題では課題が残る。		3年	▲加工技術や道具の名称などの知識の習得は得意であるが、今までの授業で培ってきた知識を使い、問題点を見つけ出し解決するような問題では課題が残る。		
授業改善の検証方法	・小テスト、テスト、ワークシート、作品、授業観察						

研修課題（キャリア教育に関連した教科としての取組）	研修課題に対する教科としての具体的な実践方法	1学期の成果と課題	1学期の結果を踏まえた具体的な実践方法及び追加内容	2学期までの成果と課題	1年間の成果と今後の課題
技術と生活の関わりについて知り、興味をもって学び、活用させることができる。	取り上げた技術や、これから行う授業が生活のどういったところで役立っているのかを取り上げ興味を引き出していく。	集中して授業に取り組む時と、集中していない時と差がある。上手くいかない時に原因を考えずに、すぐに答えを求めることが多いため、原因とその解決方法を自分なりに考えることが今後の課題である。 グーグルクラスルームを活用した授業では、生	1人1台のクロームブックを使い、主にグーグルクラスルーム上での授業を行った。意見の共有や、個人作業をクロームブックを使って行った。	グーグルクラスルームを使った授業により、話し合い活動や意見の共有がより活発に行われるようになった。また、積極的に課題に取り組むようになった。 しかし、パソコンの操作（主にタイピング）の技能に差があるため、基本的なパソコンの操作についても身につけさせていく必要がある。	